

令和6年度

第2回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和6年4月23日(火)
開会15時35分 閉会16時39分

場 所 教育委員室

令和6年度
第2回大分県教育委員会

【議 事】

- (1) 議 案
大分県立図書館協議会委員の任命について
- (2) 報 告
令和6年度大分県立高等学校入学者選抜結果について

令和6年度大分県立特別支援学校高等部・専攻科等入学者選考結果について

令和5年度大分県立特別支援学校高等部卒業者の進路状況について
- (3) 協 議
令和7年度(令和6年度実施)民間人校長採用選考(案)について

令和7年度(令和6年度実施)大分県教育庁等職員(学芸員)採用選考(案)について

【内 容】

1 出席者

委 員	委 員（教育長職務代理者）	岩 崎 哲 朗
	委 員	高 橋 幹 雄
	委 員	鈴 木 恵 代
	委 員	岩 武 茂 代
	委 員	岡 田 豊 弘
事務局	教育次長	大 和 孝 司
	教育次長	山 田 誠 司
	教育次長	武 野 太
	参事監兼文化課長	三 重 野 誠
	教育改革・企画課長	鈴 木 耕 平
	教育人事課長	吉 雄 幸 平
	特別支援教育課長	坂 本 忠 史
	高校教育課長	小 野 和 正
	社会教育課長	矢 野 修
	教育改革・企画課 総務企画監	角 淵 達 彦
	教育改革・企画課 課長補佐（総括）	新 貝 隆
	教育改革・企画課 主査	久 知 良 周 平
	教育改革・企画課 主査	穴 見 ひ と み

2 傍聴人

2 名

開会・点呼

(岩崎委員)

本日は山田教育長が欠席のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項の規定により、職務代理としてあらかじめ指名を受けている私が教育長の代理として職務を行います。

(岩崎委員)

委員の出席確認をいたします。
本日は、全委員が出席です。

(岩崎委員)

ただ今から令和6年度第2回教育委員会会議を開催します。

署名委員指名

(岩崎委員)

本日の議事録の署名については、高橋委員にお願いします。

会期の決定

(岩崎委員)

本日の会議はお手元の次第のとおりです。会議の終了は16時30分を予定していますので、よろしくお願いします。

議 事

(岩崎委員)

始めに、会議は原則として公開することとなっておりますが、第1号議案、協議第1号及び第2号は人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。

賛成の委員は挙手をお願いします。

(採 決) 全員挙手

(岩崎委員)

第1号議案、協議第1号及び第2号は非公開といたします。

(岩崎委員)

本日の議事進行は、始めに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行います。

【報 告】

令和6年度大分県立高等学校入学者選抜結果について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(岩崎委員)

まず、報告第1号「令和6年度大分県立高等学校入学者選抜結果について」高校教育課長から説明をしてください。

(小野高校教育課長)

「令和6年度大分県立高等学校入学者選抜実施結果について」報告をいたします。

まず、1ページ目の全体概要です。「全日制」の表をご覧ください。表の一番上の欄が令和6年度入試における結果であり、比較としてその下の欄に令和5年度入試の結果も示しています。それぞれの入試ごとの人数と最終合格者数をまとめています。

令和6年度の欄をご覧ください。全体の入学定員7,120人に対し、最終合格者数は6,659人でした。合格者数が入学定員に満たない欠員の人数は466人、学校数は20校であり、人数においては昨年度より76名増加、学校数は1校減となりました。

次に、同じ1枚目の「定時制」の表をご覧ください。全体の入学定員440人に対し、カッコ内の数は爽風館高校の秋季募集人数を除いた数を示しています。最終合格者数は135人でした。

続いて2ページ目をご覧ください。学校・学科ごとの入学定員、合格者、欠員の状況を示しています。欠員欄のカッコ内の数字は、学校単位で昨年度の欠員数を表しています。令和6年度入試では、例えば、中津北高校が5年ぶり、日田高校は4年ぶりに定員を充足することができました。

また、欠員が減少した学校として、一人ひとりに丁寧寄り添う教育を実践し、中学校ではなかなか学校に足が向かなかった生徒も高校では生き生きと活動している中津南高校耶馬溪校、さらに地元企業と連携して「アップサイクル」の取組や「発酵・醸造」の学びを打ち出した安心院高校などは、欠員数を大幅に減らすことができました。

少子化の影響によって、特に地域の高校では定員を充足させることが難しくなっている状況もありますが、学校独自の特色ある取組や探究的な学びの充実によって、着実に欠員数が減少している高校もあります。今後も魅力化推進事業等を活用して、地域と連携した取組を推進してまいります。

続きまして、3ページ目をご覧ください。令和6年度大分県立高等学校第一次入学者選抜学力検査結果について報告します。出題に際しては、各教科とも知識及び技能とともに、思考力・判断力・表現力を十分見ることができるよう問題を工夫しております。

上の表「学力検査合計点等の状況」をご覧ください。各教科の平均点、最高点、最低点を教科ごとに示しています。全ての教科とも60点満点です。令和6年度の結果は全体の平均点が156.1点、最高点286点、最低点0点となっております。今回は特に社会と理科の平均点が高くなったこともあり、過去5年間の平均点と比較すると、合計点の平均がやや高くなっております。

中段の表「教科別学力検査点の分布状況」をご覧ください。これは、各教科の得点の分布状況を示したものです。50点以上の生徒の割合が最も高い理科では全体の約26%を占めている一方、最も低い国語では約1%となっております。また、20点未満の生徒の割合は英語が最も高く、約37%となっております。今後、各教科において詳しい分析を行い、その結果を中高の学びの連携に繋げてまいります。

一番下のグラフは「学力検査合計点の分布状況」です。今後も、各教科の目標に即した問題を作成し、適切な選抜が実施できるように努めてまいります。

以上で、報告を終わります。

(岩崎委員)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

国語と英語が半分取れていないということは、出題の傾向が難しかったということですか。

(小野高校教育課長)

近年、英語については二極化する傾向が見られます。今年度については、特に英作文等で得点率が低く、それが影響して平均点が下降したと思われまます。

英作文においては、英文を読んで、さらにそれに対して適切な文章で考え方を表現する問題であったため、読む力に加えて、自分の考えを表現する力が必要とされました。今後、聞く力や読む力に加えて、表現する力も中学校の学びで身につけてほしいと思います。

(高橋委員)

リスニングとスピーキングはありますか。

(小野高校教育課長)

リスニングはあります。スピーキングはありません。

(岩武委員)

英語の二極化や10点未満の生徒が多いという状況はかなり前からの傾向です。学校の指導において、どのようなところに課題があると思われますか。

(小野高校教育課長)

詳細な分析については今後実施していきませんが、おそらく学校の中で行うペアワークやグループワークで読む力や聞く力を身につけることには力を入れていると思います。しかし、相手を意識しながら表現する力、書く力、話す力といったものは今後の課題だと思います。

(岩武委員)

今年だけでなく、かなり前から英語や数学で10点未満の生徒が多かったと思います。中学校1年生くらいのときに躓いてしまうと、その後まったくわからないという状況になっていると思います。小学校でも英語教育をしていますが、早く改善していかないとこの傾向はあと10年経っても変わらないと思うので、これは大きな課題としてとらえてほしいです。

(鈴木委員)

公立高校は全日制も定時制も欠員が出ていますが、公立高校を選ばなかった生徒の進路先はどのような傾向にありますか。

(小野高校教育課長)

今年度受験された生徒については、5月に正式な中学校卒業後の進路調査の結果が出ます。前年度までの傾向としては、私立高校も含めて多様化しているという面があります。定時制や通信制もかなり増えていますし、県外の高校を受験する生徒も割合的に増えています。今後も、詳細な分析をしていきたいと思っています。

(鈴木委員)

存続が危ぶまれる学校や、学級数が維持できなくなっている学校がいくつもあると思うのですが、本当に地域の方々が心配されています。大分県としてどのような方向性を持たせるのかをできるだけ早く示すことが大事だと思います。

様々なところから、様々な意見があると思いますが、受験生にとっては進学先が確保されているということが大事だと思うので、できるだけ早く方向性を示してほしいです。

(小野高校教育課長)

補足です。昨年度も高校教育課の方から申し上げたと思うのですが、中学校の

先生方に対し、地域の高校での学びがどのようなものかということが、まだ浸透していないと感じています。特に専門学科については、中学校のときから農業や工業を学びたいという生徒が育つように、中学校の先生方と協力していきたいと思っています。

令和2年度から、中学校の先生方を対象に「進路ガイダンス」というかたちで高校の専門学科の学びの内容について説明会を実施しているので、これを今後も継続しながら、しっかりと道筋を示していきたいと思います。

(鈴木委員)

地域の子が地域の学校に行けると思っている先生もまだいます。入学者選抜という試験があって、合格点に達しないと入学できないというルールのもと、全県一区でやっているにも関わらず、地元の高校に行けなかったと言われる方もいらっしゃいます。説明はするのですが、まだそのルールを理解できていない方もいます。入試の結果でショックを受けられる場合もあるため、保護者の方にも理解していただき、入試に向かってどのように勉強すればよいかをもう少し丁寧に説明する必要があると思います。

(岩武委員)

入試の結果について、今年欠員を改善できた学校も数校あるとのことでしたが、厳しくなった学校もあります。津久見高校は昨年34人の欠員が今年は64人、佐伯豊南高校は昨年33人が今年は61人、三重総合高校は13人が31人に、日田林工高校は16人が30人と、かなり厳しくなっている学校もあります。

学びの内容が浸透していないということ以外にも、いろいろな理由があると思います。そもそも学校の在り方が今のままでいいのかということもあると思います。今年欠員数が増加した学校や、何年も欠員が続いている学校に対しては、踏み込んだ対応が必要だと思います。10年後には、子どもの人数も減ってきますので、できるだけ早く取り組む必要があると思います。

(岩崎委員)

教育委員会で作った大きな方針のもと、各高校は魅力ある学校づくりをしていると思います。今回欠員が増えたということに対しては、原因をしっかりと分析して、対応していただきたいと思います。

令和6年度大分県立特別支援学校高等部・専攻科等入学者選考結果について

(2課〔教育改革・企画課、特別支援教育課〕入室)

(岩崎委員)

次に、報告第2号「令和6年度大分県立特別支援学校高等部・専攻科等入学者選考結果について」特別支援教育課長から説明をしてください。

(坂本特別支援教育課長)

「令和6年度大分県立特別支援学校高等部・専攻科入学者選考結果について」報告します。資料左の1をご覧ください。今年度の入学者選考結果を示しています。

まず、さくらの杜高等支援学校の入学選考結果を(1)に示しています。募集人員32名に対し、36名が受検し、32名が合格しました。次に、さくらの杜高等支援を除く高等部の入学者選考について(2)に示しています。さくらの杜高等支援を除く高等部の入学者選考では、法令に定める障がいの程度であることを志願条件とし、この条件を満たす生徒は合格とすることを基本としています。17校全体で185名の生徒が合格しました。

各学校別に選考状況を見ますと、11番の新生支援学校が17名、12番の大分支援学校が23名の受検者・合格者となっており、昨年度に比べて減少しています。この2校については、13番の中央支援学校が設置されたことによる影響を大きく受けています。

続いて資料右側の2をご覧ください。この表は、10年間の特別支援学校高等部への入学者の推移を示しています。本年度の入学者数は217名で、前年度と比較しますと16名増となります。また、知的障がいの特別支援学校への本年度の入学者数については202名で、前年度より14名の増でした。

下段の3は、知的障がい特別支援学校高等部の入学者数推移とその内訳を示しています。その下からは、中学校からの入学者です。特別支援学級から入学した生徒が81名と、前年度から11名増えていますが、特別支援学級の在籍生徒総数も増加しているため割合としては、49.0%となり、ここ数年と大きく変わらない状況でした。

特別支援学校高等部に対し、一人ひとりの障がいの状態に応じたきめ細かな教育を行うことへの期待が高まっている一方、中学卒業後の適切な学びの場の選定のため、市町村教育委員会との一層の連携も必要と考えています。

以上で、県立特別支援学校高等部・専攻科入学者選考結果に関する報告を終わります。

(岩崎委員)

ご質問・ご意見はありませんか。

(岡田委員)

さくらの杜高等支援学校の受検者36名、合格者32名とありますが、4名はどこに進学等したのか教えてください。

(坂本特別支援教育課長)

4名のうち、3名がさくらの杜高等支援学校以外の支援学校の高等部に進学をしています。1名に関しては、進学先等不明です。

(岡田委員)

さくらの杜高等支援学校は、基本的に一般就労をめざす生徒が進学していますが、さくらの杜高等支援学校の選抜試験を不合格となった生徒たちは、他の支援学校の高等部に進学したときに、どのような状況となるのでしょうか。

(坂本特別支援教育課長)

さくらの杜高等支援学校は、一般就労率100%を掲げている学校です。ただ、他の支援学校の高等部においても、生徒の希望進路の達成に向けて取り組んでおり、生徒が一般就労を希望すれば、十分に一般就労に向けた教育が受けられると考えています。

令和5年度大分県立特別支援学校高等部卒業者の進路状況について

(2課〔教育改革・企画課、特別支援教育課〕入室)

(岩崎委員)

次に、報告第3号「令和5年度大分県立特別支援学校高等部卒業者の進路状況について」特別支援教育課長から説明をしてください。

(坂本特別支援教育課長)

令和6年3月卒業の特別支援学校高等部の進路決定状況及び一般就労率について報告します。

まず上段の「資料1」をご覧ください。県内特別支援学校17校(附属含む)の卒業生全体に占める、進路先別の割合を示しています。昨年度は17校で計184名の生徒が卒業しました。企業等への就職は41名です。これは昨年度から14名の減少となります。

次に、左下の「資料2」をご覧ください。「資料2」は、知的障がい特別支援学校卒業生のうち、一般就労した生徒の割合を示しています。知的障がい特別支援学校の企業等への就労者数は37名です。就労先としては、メンテナンス関連に13名(35%)、小売・食品加工関連に7名(19%)、部品の組み立てなどの製造業に7名(19%)、病院や介護施設等の業務・介護補助に3名(8%)等となっています。就労者数は前年度から13名の減少、一般就労率は前年度比で4.3ポイント減少し、23.9%です。

続いて、右下の「資料3」をご覧ください。こちらは、知的障がい特別支援学校において、高等部3年に進学した時点で一般就労を希望した生徒の割合と、そのうち希望を達成できた生徒の割合を示しています。一般就労希望率は昨年度比で7.0ポイント減少し、25.2%でした。一方、一般就労を希望した生徒の就労率は、昨年度比で7.2ポイント増加し、94.9%です。これは過去最高の数値となります。ここ数年高い達成率を維持しており、ジョブ・コンダクターと連携しながら、丁寧に対応してきた結果だと考えています。

しかし、一般就労希望率は低下しているため、今後の一般就労率向上にあたっては、さくらの杜高等支援学校のセンター的機能を活用し、授業・実習等のウェブ配信を活用した授業改善を進めていきます。そして、特別支援学校の生徒を対象にした合同企業説明会を引き続き開催し、生徒の進路先の拡大を図っていきます。また、今年度からは、「生徒向け就労意識向上講習会」を実施します。特別支援学校を卒業して一般就労をした卒業生や、障がい者雇用をしている企業の方を講師に招き、生徒の一般就労への理解と啓発を図る機会として取組を進めていきます。

6 ページ以降は昨年度、当課が就労支援の手引きとして作成した「なりたい自分へ」です。特別支援学校で行われている作業学習の様子が 8 ページにあります。9 ページ以降に、実際に障がい者雇用をしている企業の具体的な取組を紹介しています。そういった取組を通して、生徒や保護者、教員への一般就労への意識向上を図り、一般就労希望率を高め、一般就労率の向上につなげていきたいと考えています。

以上で報告を終わります。

(岩崎委員)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

就職してからの話だと思いますが、各企業に就職された方の事故等の情報はこちらに入ってくるようになっていきますか。

(坂本特別支援教育課長)

卒業後 3 年間、特別支援学校が追支援と呼ばれるその後の指導を行っています。また支援が必要な生徒については、その後も追えるように各特別支援学校で行っています。

(高橋委員)

今、世界的にも環境を大切にしている企業が増えています。特別支援学校から企業に相談することで、よりよい仕事の環境作りを一緒に行っていければよいと思います。

(岩崎委員)

一般就労率の低さが課題として挙げられています。全国と比べて若干低い数値を推移していますが、なぜ全国と比べて一般就労率が低いのかという原因と、その対策を今までどのようにしてきたかを教えてください。

(坂本特別支援教育課長)

これまでは、就労支援アドバイザーを特別支援学校に配置して、企業開拓・企

業側の理解促進を中心に進めてきました。ここ2、3年は、保護者の方の福祉志向を受け、一般就労希望率を上げていくための取組も行っています。まだ成果が出ていないところもありますが、今年度さくらの杜高等支援学校の3年生が卒業しますので、目標の33%を達成できるように取り組んでいます。

(岩武委員)

一般就労を希望する生徒の割合が減少しているとありますが、私はこの数字にこだわりたくないという気持ちもあります。配慮が必要なお子さんがいるように、大人になっても一定の配慮は必要だと思います。企業側の理解も必要だと思います。ただ、個々によって違うので、一般就労よりはB型就労の方が安心できるという方も当然いると思います。一般就労に向かう人を増やすという数字にこだわるよりも、自分のこれからのことに自信が持て、社会に出ていこう、こういうことをやってみようという意欲のある人を、無理のない形で増やしてほしいと思います。

無理のない形で増やしていった結果、企業側の理解があり、子どもたちの意欲も高まり、それで一般就労率が高まったという形が一番嬉しいと思います。あまり希望を増やそうといった数字にこだわるのではなく、もちろんすでにされていると思いますが、子どもたちに寄り添ってもらいたいなと思います。

(岡田委員)

一般就労した37名の方は、自宅から出勤しているのか、グループホームから出勤しているのかはわかりますか。

(坂本特別支援教育課長)

数字は手元にありませんが、自宅から通っている方、グループホームから通っている方の2つのパターンが多いです。

(岡田委員)

一人暮らしの方はやはり少ないですか。

(坂本特別支援教育課長)

一人暮らしはかなり少ないと思います。

(高橋委員)

先日、工業系の企業の総務部長と会い、是非就労支援をお願いしますとお話をしてきました。大分県は工業系の会社が多いと思いますが、雇用したくても安全対策がなかなか難しいところもあるようです。ちょっとした工程のミスで事故になってしまいますので、特別支援学校と企業が話し合って安全対策を進めていってください。

(岩崎委員)

他にご質問やご意見はありませんか。

先に非公開と決定しました議事を行います。その前に、公開でその他、何かありますか。

(岩崎委員)

では、非公開の議事を行いますので、傍聴人は退出してください。

【議 案】

大分県立図書館協議会委員の任命について

(2 課〔教育改革・企画課、社会教育課〕入室)

(岩崎委員)

それでは、第 1 号議案「大分県立図書館協議会委員の任命について」提案しますので、社会教育課長から説明をしてください。

(説 明)

(岩崎委員)

ご質問・ご意見はありませんか。

(質 問 ・ 意 見)

(岩崎委員)

それでは、第 1 号議案の承認についてお諮りいたします。
承認される委員は挙手をお願いします。

(採 決) 全員挙手

(岩崎委員)

第 1 号議案については、提案のとおり承認します。

【協 議】

令和 7 年度 (令和 6 年度実施) 民間人校長採用選考 (案) について

(2 課〔教育改革・企画課、教育人事課〕入室)

(岩崎委員)

次に、協議第1号「令和7年度(令和6年度実施)民間人校長採用選考(案)について」教育人事課長から説明をしてください。

(説明)

(岩崎委員)

ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見)

(岩崎委員)

それでは、今回頂いたご意見等協議の結果を踏まえて準備を進めてもらいたいと思います。

令和7年度(令和6年度実施)大分県教育庁等職員(学芸員)採用選考(案)について

(3課〔教育改革・企画課、教育人事課、文化課〕入室)

(岩崎委員)

次に、協議第2号「令和7年度(令和6年度実施)大分県教育庁等職員(学芸員)採用選考(案)について」教育人事課長から説明をしてください。

(説明)

(岩崎委員)

ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見)

(岩崎委員)

今回の協議の結果を踏まえ、準備を進めてまいります。

(岩崎委員)

最後にその他、何かありますか。

それでは、これで令和6年度第2回教育委員会会議を閉会します。ありがとうございました。